

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月に中央教育審議会から出された「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）」では、これからの「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するために、ICTの活用は必要不可欠であると述べられており、各学校に整備したICT環境を有効に活用していくことが重要となってくる。

本町においては、第2次和木町まちづくり総合計画の中で、ICT環境の整備と活用を掲げており、ICTを活用した児童生徒の情報活用能力の育成を目指すこととしている。

2. GIGA第1期の総括

本町では、令和2年度末までにGIGAスクール構想の実現に向けた児童生徒1人1台タブレット端末及び校内ネットワーク環境を整備し、電子黒板等の周辺機器も含めたICT環境の整備を完了した。令和4年度には、校務支援システム、教職員用グループウェアの導入、学習eポータル等への接続を行った。さらに、ICT支援員による学校支援を通じて、児童生徒のみならず、教職員を含め、学校全体のICT活用能力の向上が図られた。

一方、学校間や教職員間におけるICTの活用状況や校務DXには、取り組みの差が生じてきている。ICT支援員を活用し、それぞれの教職員のスキルに合わせた研修の実施を検討していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想の実現に向けた児童生徒1人1台タブレット端末及び校内ネットワーク環境等を整備し、ICTを活用した児童生徒の情報活用能力の育成を図るための体制づくりをすすめてきた。引き続きこの体制を維持するため、本町では、令和7年度に児童生徒1人1台タブレット端末の更新を計画しており、次の方策によって、1人1台タブレット端末の利活用を進めていく。

(1) 1人1台タブレット端末の積極的な活用のために

研修や教職員用グループウェア内での情報共有を行うことで、学校における1人1台タブレット端末の積極的な活用できる環境整備を行うとともに、各学校の端末活用に関する課題解決につなげる。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実のために

GIGA第1期でも行ってきたデジタルドリル及び授業支援ツールを活用する。デ

デジタルドリルでは、学習履歴など教育データを活用し、児童生徒の個別の理解度や進度に合わせた指導を推進していく。また、授業支援ツールでは、児童生徒が「調べる」「考えをまとめる」「発表する」といった学習場面において、1人1台タブレット端末を状況に応じて積極的に活用し、協働的な学びの充実を図る。

(3) 全ての児童生徒への学びの保障のために

児童生徒の実態等に応じて、ネットワークと1人1台端末を有効的に活用した支援の充実に取り組む。町の教育支援センターに通所する児童生徒の学びの保障の一環として、学校とのネットワークを利用した授業の配信等にも取り組んでおり、引き続きその充実も図る。

(4) 個別最適・協働的な学びの充実のために

次の5つの場面において1人1台端末を週3回以上使用させる学校の率を100%にする。

①児童生徒が自分で調べる場面

②児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面

③教職員と児童生徒がやりとりする場面

(例：学習内容や学習過程の確認、課題の配布や提出、教師によるモニタリング)

④児童生徒同士がやりとりする場面

(例：他者参照しながら学び合う、端末内の資料を持ち寄り話し合ったりプレゼンテーションしたりする、資料や作品等を共同編集する、撮影した写真や資料等を直接またはデータ上で見せ合う)

⑤児童生徒が自分の特性や利用頻度・進度に合わせて課題に取り組む場面

(例：学校内の自習、自宅での学習、他者参照を通して学習の方法やペースを調整する、自分の理解度やタイミングに合わせて端末を活用して調べる)